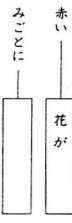


五、次の文の——のことは、どのことをくわしく説明していますか。(例)にならって答えを□の中に書きなさい。

(例) 赤い 大きな 花が 庭一面に さいている。

1 みごとに まっ白な 大がらな 花が さきました。



2 この 気高い 人道的な 考えを 生みだした人は だれでしょう。



六、次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

父と のり取りに 行く。

風の強い朝だ。

父には こがせないで ぼくが こいで行く。

のりあみが ならんで ういている。

あみの目が 見えないくらい ついでいる。

左手に ザルを持つ あみを にさる。

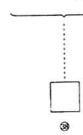
2 ———を引いた部分は、作者のどんな気持ちを表そうとしたものでしょうか。次の——の中から もっとも正しいのを一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

ア 初りのりを手にしたときのうれしさ

イ 黒光りした初りのりを手にしたものがなしき

ウ 初りのりを取るつめたさと苦しさ

エ 寒さの中で父の仕事を手伝った満足感



3 この詩を読んでうけた印象として、もっともよいものを——の中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

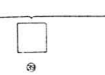
ア うららかな海上での、のり取りの様子がよくわかる。

イ 初りのりの収かくのうれしさに、風と水のつめたさも忘れて動いている様子がよくわかる。

ウ 父と力を合わせて、のんびりどのり取りをしているのがよくわかる。

エ 舟ぶちが、ギイギイなるほどの初りのりの収かくであったことがよくわかる。

オ 父をいたわりながら、寒さに負けずにのり取りを楽しんでいる様子がよくわかる。



6

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今からおよそ一万年ほど前に、人類のいくつかのグループが、農業をすることに気がついた。

(1)

しだいにそれを開発し、広めていった。この農業の発明と進歩は、そのころの人々の生活を大きく変えた。

農業が開発される以前は、人間は、食物を得るために狩りをしてきた。また、牛や羊などの家畜をかかって、いたとしても、それらを連れて、新しい牧草を求めてさまよい歩いていた。そのころの人たちは、ある土地に住みつくことはなく、決まった家もなかった。小さいグループで、いつも住みやすい土地から土地へ移動して生活する、いわゆる遊牧の民であった。

(2) 農業することをおぼえると、作物がよく育つ豊かな土地が必要ではあるが、そのかわり、ひとつの決まった場所におちついて生活することができるようになる。また、えものの動物や魚や貝などちがって、こく物は、長くたくわえておくことができるので、いつでもほ

しいときに食料にすることができるわけである。

初りのりだ 黒光りがして 手さわりがいい。
あみをにぎっている手の方が 水に入れている手より つめたい。
のりあみは 波で ヘビが 進んでくるように 見える。
舟ぶちが クイと すれ合って、ギイギイとなる。

1 「あみをにぎっている手の方が、水に入れている手よりつめたい。」のは、どうしてですか。次の——の中から正しいものを一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

ア 父にこがせないで、自分で舟をこいで行ったから

イ あみの目が見えないくらい、いっぱいのりがついていてから

ウ 朝は、海水の温度がこおるようにつめたいから

エ 強い風が、ぬれた手にえんりよなく、ふきつけるから

